

優しく強い子に！



<http://www.minamih.net/>
22・3・1(火)
南NEWS no 113

6年生白百合 SC 練習試合

2022年2月27日(日) @元八王子G

○めあて

- 1) 強く勝つ気持ちを持つ
- 2) 5つ観て判断する
- 3) 味方のサポート。特に角度
- 4) コーチング

○試合概要 (各20分を6本)

調布一小が参加できず、白百合6年生と6本の練習試合をさせていただきました。1試合目は守備の時間が多くなり、攻撃の時間は少なかったですが、3本目以降は相手のスピードに慣れはじめ、互角に戦える時間が増えました。

特に、トップ下のユズキ君中心にセンターライン、中盤では互角に戦えました。まさにチームの中心です。

攻撃では、トップでのカツヤ君のドリブル、アサキ君のインタセプト、ショウゴ君のチェース、アキラ君の献身的な守備でゴール直前まで迫れました。

守備では、カイリ君、ハヤト君、ヒデオ君、ショウマ君らで最終ラインを守りました。コウヨウ君のドリブルも通用して敵陣までボールを運べました。GK ショウタ君は何度もファインセーブをして、今日最も成長できた選手でした。



○スコア

1. 0-2 2. 0-4 3. 0-0 4. 0-0 5. 0-3 6. 0-3

○コーチ所感

攻撃：以前に比べると、縦パス、縦ドリブルと単調な攻撃が減ってきました。今日は攻撃の時間は多くありませんでしたが、劣勢の時にはロングボールも使い、自陣から敵陣へ押しあげる戦い方も出来ました。敵陣に展開した後に、ドリブルやワンツーも使える柔軟な戦い方もできるようになってきています。

守備：足だけで相手にかわされる場面は少なくなりました。ステップワークを使い、ディレイして相手の攻撃を遅らせる、相手に抜かせない守備を徹底していく必要があります。相手にドリブル突破を許してしまうと、大ピンチになります。また、プレスバック、チャレンジ&カバーはまだ不十分です。全体：全員が強い気持ちを持ち、1対1での局面でも相手とのデュエルが出来ました。

強豪相手で、強い気持ちがなければ、大量失点に繋がります。自信を持って戦えるチームになりつつあります。メンタル面が最も成長できたところでした。どんな強豪でも戦える力がついてきています。もっと成長していこう！！
by 中野コーチ

円柄方鑿 えんぜいほうさく

“円い孔に四角い柄(ほぞ)を入れる意味で、物事が上手く合わないこと”という意味です。

今、1970年 昭和45年8月30日初版の夏目漱石全集を読んでいます。新しい本を何冊か買うと3000円・5000円とすぐなくなってしまいます。そこで家にあった漱石の全集に目をつけたのです。

草枕を読んでいます。旧仮名遣い、今まで見たことも読んだこともない熟語・言葉がたくさん出てきます。そのたびに辞書で調べますが、載っていないものもあります。20ページほどを読む間にA4のノートが調べた熟語や言葉でいっぱいになりました。

円柄方鑿もその一つです。この4文字熟語を知って、サッカーの指導について考えたのです。

……子どもの力を無視した、実態に合わない練習メニューを課すことも、円柄方鑿になるよな……

と考えたのです。

ボールしか観ることができないビギナーの子どもたち。だから団子になる子どもたちに、ポジションを教え、周りを観てパスをしろという指導も円柄方鑿になりますね。

子どもの力、実態を無視した練習だと“できた！ぼくも上手くなったよ！”という喜びもなかなか味わえないということになりますよね。

南の1年生の子どもたちが、小さい体で相手に当たられながらも、ボールを失うこともなくドリブルで突破していく場面を観ることは、指導者としてとても嬉しいことです。相手のプレッシャーを受けてもボールを保持できる選手であることはパスの名人になるための必須の条件だからです。川崎の家長選手がそうですね。南の1年生には未来の家長選手がたくさんいます。

子どもたちの力・実態に合わせたドリブル・団子サッカーから始まるサッカーの学びは大きなものを子どもたちにプレゼントしてくれます。そして、教えなくても、パスをするようになります。まだ早いよと言わず、それは認めてあげてください。

やがて、団子は縦長になり、横幅も広がっていくのです。コーチは南が理想とするサッカーの実現をめざして、適宜アドバイス・提案をするだけです。 by 南の安版万



